

障害者支援施設 厚生センター晴雲

1 施設の課題と取組方針

(1) 『心豊かな暮らしづくり』

ア サービスの質の向上

課 題	利用者の障がいの重度化・高齢化への対応
現 状	個別支援計画に基づき、利用者個々のニーズに沿った支援を提供しているが、利用者の高齢化による身体機能の低下及び重度化が急速に進み、食事、入浴、排泄等の日々の支援についても、きめ細やかな支援（配慮）が必要である。
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の健康管理を徹底し、疾病の早期発見、早期治療に努める。 ・ 専門職を中心に施設内でのリハビリの実施体制の充実を図る。また、言語聴覚士の必要性や活用についても検討する。 ・ サービス管理責任者、チーフ、担当支援員を中心に、適切なアセスメントによる身体状況やニーズ把握を行い、個別支援計画の充実を図るとともに、個別支援計画に基づくチームとしての支援体制を充実する。 ・ サービス向上委員会、各種委員会及び部会等を活性化することにより、サービスの質の向上を図る。 ・ 福祉用具の効果的な活用を推進するとともに、新たな介護機器（介護ロボットなど）の必要性についても検討する。

イ 利用者の暮らしの保障

課 題	事故防止対策の強化
現 状	当施設は重大事故の件数はさほど多くないが、軽微な事故が繰り返し起きている状況である。
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「報告・連絡・相談」のより一層の徹底を図り、ヒヤリ・ハットや事故報告の情報を職員間で共有し、安全・安心への意識を高める。 ・ 利用者に安全な生活を提供するため、事故防止部会で事故報告書の内容を検証し、職員会議等で全職員に周知していく。 ・ 重大な事故につながる可能性がある場合には、臨時の部会を開催し、事故の検証を行い、全職員に周知する。

ウ 福祉ニーズに即したサービス提供

課 題	機能訓練事業の充実
現 状	機能訓練事業については、利用者の確保が難しい状態が続いている。他県

	<p>でも同じ傾向にあるが、県内で数少ない機能訓練事業を実施する施設として、その役割は大きいと考えるが、一方では安定した収支での事業運営が求められる。</p> <p>その中で、利用経路の多くを占める回復期病院などからの退院後直ぐの機能回復段階にある利用者のニーズに対応し、訓練の継続性を保つことができるようなプログラム内容が必要である。</p>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所との連携強化を図り、圏域の利用ニーズの把握や利用者の掘り起こし、スムーズな地域移行に繋げる。 ・実施プログラムや職員配置（言語聴覚士の活用等も含め）などの検討も行い、病院や介護保険事業所などの関係機関に対しての効果的なPRに繋げる。 ・施設の多職種による「事業のあり方検討委員会」において、機能訓練事業のあり方や今後の事業展開などの検討を行う。

(2) 『活力に満ちた職場づくり』

ア 人材の確保と定着

課 題	人材確保・定着に向けた取組
現 状	<p>福祉現場での人材確保が難しい状況の中、平成 29 年度は準職員の離職も多く、慢性的に人材が不足しており、職員の負担も大きく、サービスの提供に支障を来す可能性がある。また、利用者より「職員が少ない」、「忙しそうで声を掛けにくい」等の意見もあった。</p>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ハローワーク、福祉人材センター、教育・研修機関等との連携を強化し、情報提供・収集に努め、求人活動のより一層の充実を図る。 ・事業団HP、求人ポスター・チラシを活用した広報、就職相談会等へ積極的に参加する。 ・教育・研修機関等からの見学・実習を積極的に受け入れ、採用へ結びつける。 ・新規採用職員に対し、研修及び指導の充実を図る。 ・職員の定着については、コミュニケーションを多く持ち、風通しのよい職場環境をつくる。 ・職員を介して知人の求職者を紹介してもらうなど、職員の協力も求めている。

イ 人材の育成

課 題	職員の専門性の向上
現 状	<p>経験が浅く、技術的に未熟な職員も多く、職員間で支援技術に個人差があ</p>

	り、基本的な支援技術が平準化されないままの状態で行々の業務に追われ、業務の改善や効率化に繋がっていない状況がある。
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内の支援技術研修を継続し、効果的な実施を図る。 ・新規採用職員の OJT 研修については、組織的なバックアップを強化し、研修体制の充実を図る。 ・準職員も含め、積極的に外部研修へ派遣することにより、自施設の改善すべき点を洗い出し、支援技術研修などを通じ支援技術の平準化を図る。 ・専門職による支援技術や福祉用具等に係る研修を実施する。

ウ 職場環境の改善

課 題	職員の心身の健康管理の推進
現 状	職員の健康管理、福利厚生については従来から取り組んでいるが、慢性的な職員の欠員から精神的にも、肉体的にも疲労感が見られる。利用者の重度化により業務の多様化も進み、メンタル面での不安を抱える職員も増えている現状である。
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・忙しい中でも職員間のコミュニケーションを活性化させ、チームワークを醸成する。 ・管理・監督の立場にある職員が中心となって日頃から職員の様子を伺い、声を掛け、体調を崩しかけている職員を早期に見つけて対応する。

エ 業務の改善

課 題	コンプライアンスを意識した業務の遂行
現 状	当施設では職員不足の中でも、関係法令や、社会的ルールを遵守し、業務運営を行っているが、日々の多忙な業務に流されて、無意識のうちに法令等の根拠が不明確なまま業務を進めるなど、コンプライアンス意識が希薄にならないようにしなければならない。
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止部会を活性化し、職員が常に高い意識を持って業務を行なえるようにする。 ・法令遵守や社会的ルールについて、経営企画会議や職員会議などで意見交換等行い、意識や情報の共有化を図る。 ・利用者及び家族等に積極的な情報開示と情報提供に努め、説明責任を果たす。

(3) 『快適な住まいづくり』

ア 計画的な施設・居住環境の整備

課 題	快適な居住環境づくり
現 状	<p>改築により建物等ハード面は整備されたが、生活空間は閑散としており、とても温かみを感じられる空間にはなっておらず、病院のような雰囲気にも感じられるため、生活の場としての居住環境の整備が必要である。</p> <p>また、重度化・高齢化の進行により外出等の機会も減り、外部との交流も希薄となり、施設という限られた環境の中での生活となりがちであることから、外部とのふれあいや交流の機会を増やしていくことが求められる。</p>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・個室により個人のプライバシーを守りながら、フロアなどの共有スペースにおいては、利用者作品の展示や季節を感じられる生花や装飾等で、生活の場として潤いを感じられる環境づくりに努める。 ・ボランティアや地域住民、学校等の研修・交流体験事業等の積極的な受け入れを行うなど、外部との交流を深めることにより、施設内の雰囲気の活性化を図る。

(4) 『安定的な経営の基盤づくり』

ア 収支の安定化

課 題	利用率維持・向上の取組
現 状	<p>生活介護の利用者については、特に長期入院が利用率低迷の原因となっており、入院が一定期間経過したところで、家族、病院のケースワーカーと調整し退所等必要な手続きをとっている。</p> <p>機能訓練事業については、利用者の確保が難しい状況にあり、なかなか利用率の向上に繋がらない。</p> <p>相談支援事業については、制度改正によりモニタリング実施標準期間の見直しがあり、モニタリング及びサービス等利用計画作成の円滑な運営が必要である。</p> <p>また、県から受託していた高次脳機能障がい者支援事業の松江圏域相談支援拠点は平成 29 年度で終了したところである。</p> <p>訪問介護事業所については、サービス提供責任者 1 名体制での利用者数に制約があるため、計画的な運営が必要である。</p>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種で日々の健康管理を確実にを行い、疾病の早期発見、早期治療に努め入院者の減少に繋げる。 ・入所希望者の状況把握に努め、退所者があった場合、新たな利用者の速やかな入所に努める。 ・機能訓練事業については、病院・相談支援事業所等関係機関へ訪問等による PR・働きかけを行い、事業内容の理解を深めてもらうとともに、利用ニーズの把握に努め、円滑な利用に繋げるようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業については、契約者の人数をベースに、月々のモニタリング及びサービス等利用計画作成により、利用率の向上に努める。 ・訪問介護事業については、利用者の拡大が難しい中、効率的な取組を行い、利用率の維持に努める。
--	--

2 中期経営計画数値目標

(1) 利用率

事業名	定員	H28 実績	H29 見込	H30 目標	H31 目標	H32 目標
施設入所	80 名	92.7%	90.2%	92.0%	93.0%	94.0%
生活介護	75 名	94.2%	91.8%	93.0%	94.0%	95.0%
機能訓練	20 名	63.3%	49.0%	55.0%	60.0%	65.0%
短期入所	5 名	23.0%	26.3%	25.0%	28.0%	30.0%
居宅介護	—	264 件/月	180 件/月	180 件/月	180 件/月	180 件/月
訪問介護	—	148 件/月	100 件/月	100 件/月	100 件/月	100 件/月
相談 (計画件数)	—	21 件/月	25 件/月	25 件/月	25 件/月	25 件/月
相談 (モニタリング件数)	—	21 件/月	20 件/月	27 件/月	27 件/月	27 件/月

(2) 固定資産購入計画

(単位：千円)

固定資産名称	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
電動ベッド (4 台、更新)	873	873	873
全自動血圧計 (更新)	250		
コードレスバイク (更新)	314		
ドラム式洗濯乾燥機 (更新)	260		
スチームコンベクションオーブン (更新)	1,739		
全自動洗濯機 (汚物処理専用) (更新)		864	

(3) 修繕計画 (10 万以上～ 大規模修繕を除く)

(単位：千円)

工事名称	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
小破修繕 (1 件 10 万円未満合算額)	400	400	400